

## 持続的成長を支える経営基盤



事業活動におけるサステナビリティ  
人に関するサステナビリティ  
社会貢献活動  
サステナビリティデータ  
マネジメント体制  
コーポレートガバナンス  
コンプライアンス・リスク管理

## 事業活動におけるサステナビリティ

サニックスグループは、事業活動によるお客様への価値提供を通じて社会課題の解決を図ることを価値創造モデルとしており、このビジネスモデルによって、「次世代へ快適な環境を」という企業理念を実現してまいります。

### ■数字で見るサニックスグループ

(2023年3月末現在)



シロアリ消毒施工軒数

約 **830,000** 軒



給排水管維持管理施工件数  
(防錆機器設置等)

約 **38,000** 件



太陽光発電販売・施工件数(自社施工分)

約 **49,000** 件

(うち住宅用約 20,000 件)  
容量で約 1.4GW(原発1基分相当)



ペストコントロール施工軒数  
(事業所向け害虫・害獣防除)

約 **34,000** 軒



廃液処理量

約 **2,500,000** トン



資源循環型発電

プラスチック処理量

約 **5,900,000** トン

苫小牧発電所発電量

約 **5,000,000** MWh



ユース世代のスポーツイベント歴代参加者数  
(ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道)

**43** カ国・地域から約 **52,300** 人



### ■有事における社会貢献活動

自然災害に代表されるような災害、事故の発生時には、サニックスグループのノウハウ・知見を活かした活動により、地域・社会に貢献しています(以下は、その一例です)。

1982年 7月(昭和57年)	長崎大水害	浸水家屋、ゴミ捨て場のゴミの防疫消毒実施
1993年 8月(平成5年)	鹿児島大水害	家屋および周辺の防疫消毒実施
1995年 1月(平成7年)	阪神大震災	避難所、トイレ等の防疫消毒実施(下記写真①)
1997年 1月(平成9年)	ナホトカ号重油流出事故	回収された重油、約1万トンの処理を実施(下記写真②)
2010年(平成22年)	口蹄疫の流行	感染拡大防止のため通行車両消毒の実施(下記写真③)
2011年(平成23年)	東日本大震災	盛岡市被災地支援施設建設プロジェクトにて、大槌町集会所に太陽光発電システム提供(下記写真④)
2014年～(平成26年)	デング熱国内感染発生	デング熱の国内発生を受け、2016年より野外コンサート会場の蚊対策を毎年実施
2017年～(平成29年)	ヒアリの国内発生	2017年以降国内でのヒアリ確認情報が相次ぐ福岡の港湾物流倉庫にてヒアリ生息調査実施
2017年(平成29年)	九州北部豪雨	被災地住宅の床下泥土除去・清掃・消毒等の復旧支援活動を実施(下記写真⑤)
2020年(令和2年)	新型コロナウイルス	新型コロナウイルス感染者発生施設における消毒実施
2020年(令和2年)	令和2年7月豪雨	豪雨被害を受けた小学校(大分県九重町)の復旧工事(2021年1月～3月)において、校舎および体育館の床下殺菌消毒を実施(下記写真⑥)
2021年(令和3年)	令和3年8月豪雨	佐賀県武雄市の災害ボランティアに、当社武雄工場の社員が参加



阪神大震災時、防疫ボランティアを申請し、西宮市で避難所の防疫消毒を実施(1995年)。



ナホトカ号重油流出事故による重油処理に対し、海上保安庁より感謝状授与(1998年)。



宮崎県都農町にて、通過車両等の殺菌施工を実施(2010年)。



岩手県盛岡市被災地支援施設建設プロジェクトに協賛し、大槌町の集会所に太陽光発電を提供(2011年)。



福岡県東峰村において、浸水住宅の床下泥土除去・防疫消毒等、復旧支援を実施(2017年)。



大分県九重町にて豪雨災害を受けた小学校の床下殺菌消毒を実施(2021年)。

### ■環境大臣より感謝状授与

「長年にわたり、衛生管理や産業廃棄物のリサイクル、再生可能エネルギーの取り組み、次世代へ快適な環境を継承することに貢献してきた」として、2019年(令和元年)9月、環境大臣より感謝状を頂戴しました。



# 人に関するサステナビリティ(教育)

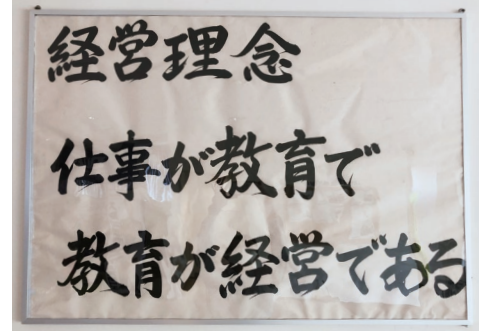
「人が品質」の実現へ。

## 経営理念「仕事が教育で 教育が経営である」

サニックスグループは、「仕事が教育で 教育が経営である」を経営理念とし、経営戦略の中でも、特に「人づくり」を重点課題の一つとして位置づけています。

創業当初より、「仕事に対する使命感や意欲、豊富な専門知識が不可欠」という考えのもと、社員教育に徹してきました。これは、提供するサービスが、衛生管理や廃棄物リサイクル、エネルギーといった目に見えないものであり、従事する従業員の質がサービスの質に直結するとの考えに基づくものです。

教育専門の部署(人財開発部)および、自社の研修センターを設け、「お客様にご満足のいくサービスを提供し、次世代の快適な環境づくりに貢献できる人財の育成」に努めています。



### 「サニックス総合研修センター」(福岡県宗像市)



自社研修施設「総合研修センター」を有しています。コロナ禍においては、細心の感染防止策を講じての少人数制および、当センターを拠点に各地をオンラインで結んでの研修としています。2020年度～2022年度の3年間で、延べ1,560名の従業員が研修を受けました(計86回の研修)\*。

なお、社内研修期間以外には、外部への貸出も行っており、地域の少年ラグビーチームの合宿や企業研修の施設としても、活用いただいています。

\*社内にて実施された全研修の累計受講者数。

### ■社内教育体系図

種別	研修名	対象者					強化スキル		
		部長	次長 課長	次世代 リーダー (副主任 ~係長)	若手 社員 (2~3年目)	新入 社員	テクニ カル スキル	ヒュー マン スキル	コンセ プチュ アル スキル
階層別研修	部長研修	○						○	○
	次長・課長 研修		○					○	○
	所長・工場長 研修		○					○	○
	次世代リーダー 研修			○			○	○	
新人研修	新入社員導入 研修					○	○	○	
	新卒フォロー 研修				○	○	○	○	
事業別研修	HSスタート 研修					○	○	○	
	HS実務強化 研修				○	○	○	○	
定着・育成	メンター研修 (制度)				○	○	○	○	
その他	実務相談 (フォロー面談)					○			
	eラーニングに よる専門知識	○	○	○	○	○	○		



年間で200名以上が受講する新入社員向けの導入研修。サニックス社員として自立するため、理念・ビジョンの浸透だけでなく、「社会人基礎力」も磨く。なお、新規学卒入社者に対しては、合計3回のフォロー研修を実施。



就業から数カ月後に、職種ごとのフォロー研修を実施。この間で生じた問題点や改善点を確認するとともに、新たな目標設定を行う。

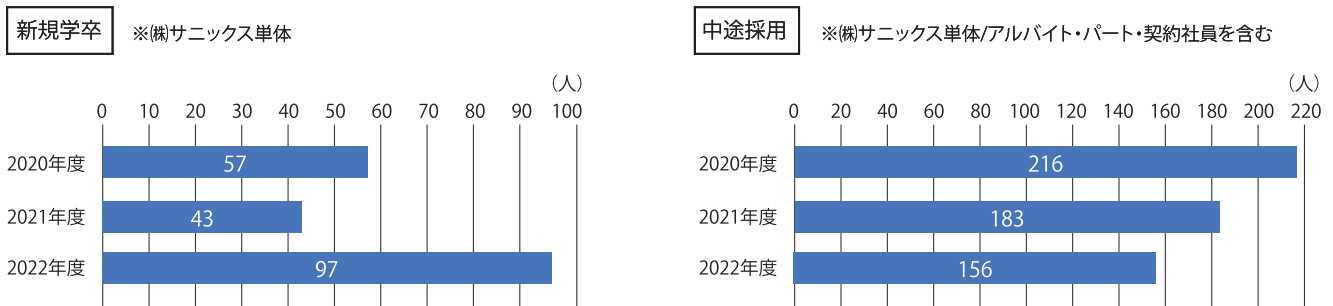


# 人に関するサステナビリティ(雇用)

専門家集団を支える雇用体制

## 企業活動の全ては人財にあり。未来を担う人財を創出する。

### 採用状況(入社数の推移)



### 多様な雇用サポート体制

#### ▶メンター制度によるサポート

新規学卒の新入社員には、それぞれメンター(支援者)を付帯します。実務教育係ではなく、メンティー(新入社員)の心情や悩みなどに対して正面から向き合う心強い存在です。また、コミュニケーション促進のため、定期的なサポート面談を実施し、従業員との交流を促進する仕組みも整えています。



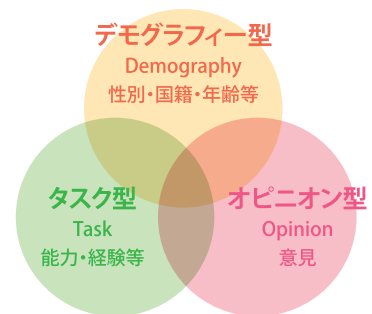
#### ▶定年選択制によるライフプラン形成

「人生100年時代」と言われる中、60歳または65歳の定年選択制を導入しています。定年後の雇用についても、60~65歳の嘱託社員雇用、65歳以降の契約社員雇用など、従業員のキャリアやライフプランの形成に柔軟に対応しています。

### 社内におけるダイバーシティの推進

本来、ダイバーシティは、デモグラフィック型・タスク型・オピニオン型が三位一体であるのが本質ですが、一般的には、デモグラフィック型のみが先行しがちな側面があります。

サニックスグループでは、目に見えない性質のタスク型、垣根を越えて意見を交わすことを推進するオピニオン型も掛け合わせ、相乗効果を図りながら、ダイバーシティを推進してまいります。



### 福利厚生など

#### 社員持株制度

従業員が、希望に応じて毎月一定額を拠出し、自社株を持株会が買い付けます。従業員の資産形成を支援するとともに、従業員の経営参画意識を醸成する役割を担っています。

#### 保養施設(ハウステンボス)

九州随一の規模を誇るテーマパーク・ハウステンボス内の宿泊施設に、家族も含めて安価で宿泊する制度を設けています。

#### 資格手当

社内資格・公的資格合わせて113種の資格を対象とし、保有者には永続的に資格手当を支給しています。資格取得を推進し、従業員の新たな知識・スキルの習得を促進します。

#### 福利厚生サービス

業界最大の会員制福利厚生サービスに入会。レジャー、ショッピング、育児、介護、自己啓発など、さまざまな場面での特典のほか、共済会との連携による、独自のサービスも用意しています。

#### 社宅制度

会社指示による異動などに際し、家賃を補助する社宅制度を設けています(各種要件あり)。



# 人に関するサステナビリティ(労働安全衛生)

## 労働安全衛生に関する基本方針

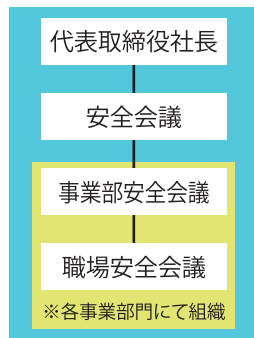
サニックスグループでは、従業員の安全と心身の健康は事業発展の礎であるという考えのもと、安全衛生への取り組みを企業活動の最も重要な基盤の一つと捉えています。安全で快適な職場環境の形成に努め、また、災害、事故の未然防止に向けて積極的に取り組んでまいります。

1. 安全は、事業発展の礎であることを認識し、労働災害ゼロを目指す。
2. 社員一人ひとりが安全確保に取り組み、強固な安全体制を構築する。
3. 安全を支える人材育成を図り、安全風土の形成に努める。

## 安全で快適な職場環境の形成を推進する安全管理体制

### ■安全管理体制組織

安全活動の充実、労働災害の防止および労働安全管理の向上を図ることを目的とした「安全管理規程」を定めています。この規程に則り各事業本部長および管理本部長を管理責任者とする代表取締役直轄の安全管理体制を確立し、業務運営に則した安全対策が実施できるように継続的に改善を行っています。



### ■協力会社との連絡会



建設業における協力会社を対象に労働安全衛生に関する協議の場(集合形式・各協力会社訪問等)を設けています。2022年度は会社訪問あるいは、資料配付を行いました。

## 労働災害に関する目標と実績(2022年度)

### 【基本方針】

安全と健康の確保を企業活動の最も重要な基盤の一つと考え、「危険ゼロ」を究極の目標とし、教育を通じて、社員の安全と健康意識の高揚を図り、社員の自発的な行動と企業が協力して、快適な職場環境の形成を目指す。

### 【最重点目標】

- ・許容できないリスクゼロを達成するために、店社による安全パトロールを実施する。
- ・心の問題を抱える社員への適切かつ迅速な対応と支援を実行する。
- ・健康診断受診後、有所見者と診断された社員の再受診等の推奨を徹底する。

### 【最重点施策】

- ・作業手順書に準拠した作業を徹底する、手順は適宜改訂する。
- ・許容できないリスクは、許容できるリスクにまで低減する。残留リスクは、保護具による対応を徹底する。
- ・安全衛生教育による危険感受性の高揚と危険取行の低下(抑制)を図る。ハラスメント教育を継続して、自身の行動と発言を振り返らせるとともに、現場に内在する問題は顕在化させる。
- ・ヒヤリ・ハットの分析結果を全社に水平展開して、災害防止の徹底を図りながら、店社安全パトロールにて実施状況を把握する。
- ・長時間労働による過重労働が認められた社員は、産業医との面談(WEB)を実施する。また、健康診断の有所見者対応は、産業医と密に連絡をとり、改善に向けた取り組みを積極的に促すとともに、再受診を推奨する。

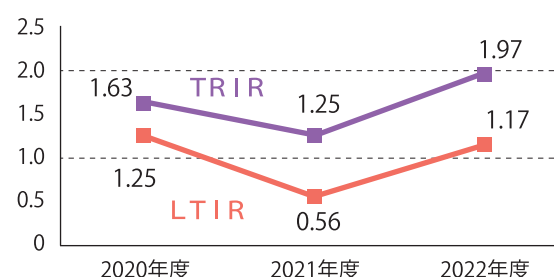
### 【重大災害被災者数】

2020年度	0人
2021年度	0人
2022年度	0人

### 【労働災害による死亡者数】

2020年度	0人
2021年度	0人
2022年度	0人

### 【総災害度数率(TRIR)・休業災害度数率(LTIR)の推移】



#### 度数率(TRIR)

$$\frac{\text{年度内の被労働災害者数}}{\text{総労働時間数}} \times 200,000$$

#### 休業災害度数率(LTIR)

$$\frac{\text{年度内の休業を取得した被労働災害者数}}{\text{総労働時間数}} \times 200,000$$



## 安全衛生管理活動の事例

### ■ヒヤリハット事例の共有・活用

各事業所で随時記録した事例を事業本部に提出し、共有・分析しています。また、危険度の高い事例は、毎月開催する安全衛生担当者会議で協議し、危険感受性を高めるとともに、対策・ルール決定などを行っています。



ヒヤリハット・改善策の事例集を毎月発行（E R D事業部門の例）。

### ■「操業・安全便り」の発行（E R D事業部門）

安全に対する知識習得や安全意識向上を目的に、毎月、安全衛生をテーマに、各種情報を発信しています。



### ■安全大会（E R D事業部門）



「危険を疑似体験、危険に対する感受性の向上」をテーマに、各工場ごとに安全大会を開催しました。VR教材や体感装置による事故体験などを通して、身近に潜む危険への感受性を高め、事故防止への意識を高めました。

## 従業員の健康に関する取り組み

サステナブルな組織運営のためには、従業員が心身ともに健康な状態で働くことが重要であることから、メンタルヘルス不調の未然防止に積極的に取り組んでいます。

### ■メンタルヘルスケア

毎年12月に、法定の「ストレスチェック」を、全社員受検可能な体制で実施しています。自身のストレス状態を把握することでメンタルヘルス不調の早期発見・ケアにつなげる他、医師によるカウンセリングの体制も整え活用しています。2022年度は、17名が高ストレスと判断されました。

### ■5 S活動

各事業所にて選任された5 Sリーダーを中心に、毎月設定したテーマに沿って、5 S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）に取り組んでいます。

各事業所において取り組んだ活動内容に関する情報を、毎月、各事業本部にて集約。優れた取り組みや他事業所の参考となる取り組みについては、ポスターや社内報などで全事業所に紹介。情報を水平展開し、全社的な改善を図っています。



### ■安全衛生担当者会議（S E・H S・E S事業部門）

各事業所に安全衛生担当者を選出。月1回、地区ごとに、「安全衛生担当者会議」を開催しています。S E・H S・E S事業統括本部の技術部安全衛生指導課および、人事部安全衛生課の担当者も参加し、情報共有に努めています。



オンライン会議を中心として、状況に応じて集合会議も開催。

### ■ケア相談窓口ポスターの作成・掲示

ストレス要因は就業中に限りません。体調不良や家庭での介護によるストレス等さまざまです。社内の人に相談しにくいためにストレスを自身で抱え込むことを防止するために、社外の専門機関と提携し、社員が利用できる窓口を用意しています。ポスターを各事業所に掲示し、相談窓口の利用促進を図っています。



# 人に関するサステナビリティ(顧客満足)

## 顧客満足度向上に向けた施策(顧客満足度調査)

2018年11月に、「CS向上ワーキンググループ」を発足し、顧客満足度の把握・向上に努め、継続的な改善活動に反映させています。



### <顧客満足度把握の取り組み事例>

#### ① 顧客満足度アンケート(はがき・WEBフォーム)

訪問時、お客様にお渡しし回答を依頼する、はがき形式(WEB回答も可能)のアンケートを、SE・HS・ES事業部門で導入しています(その場で回収または、後日投函いただきます)。日常的に実施しているアンケートです。

お寄せいただいた内容は、取りまとめて、毎月1回、社員にフィードバック(掲示物およびWEB社内報にて)するほか、お客様の声から課題を抽出し施策を講じることで、スパイラルアップを図ります。

#### お客様の声を収集



その場で回収する場合でも、本音で回答しやすい目隠しシール(HS)。

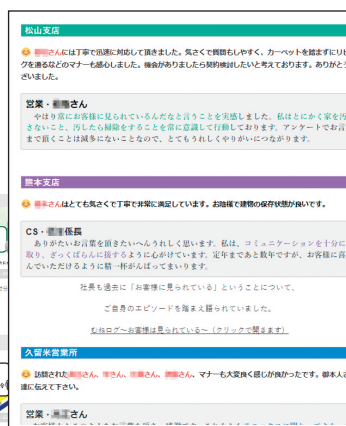


WEBでも回答可能。

#### お客様満足度向上に生かす



◀得られたお客様の声から、課題を抽出し、施策を検討。PDCAのサイクルを回す。

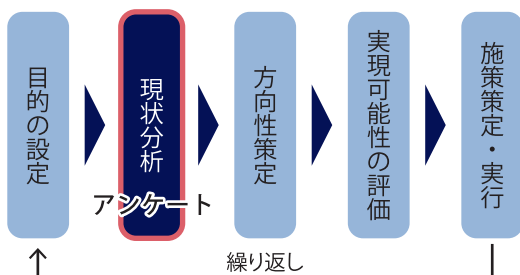


▲お客様の声を、WEB社内報等で、社員にフィードバック。担当社員の言葉とともに、全社的に共有。

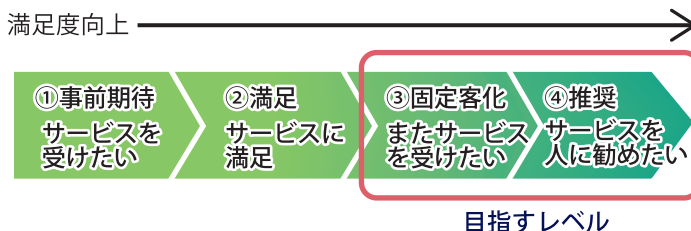
#### ②お客様満足度向上アンケート

2018年度より、戸建住宅向けのお客様に対して、年1回のアンケート調査を実施しています。シロアリ消毒保証期間中のお客様から、ランダムに約5,500名様を抽出(過去に抽出したお客様との重複なし)。郵送およびWEBで回答を収集し、分析しています。得られた回答は、分析を行い、課題を解決する施策を策定・実施することで、以降の業務に反映させています。

#### ■顧客満足度向上のプロセスとアンケートの位置づけ



#### ■目標とする顧客満足度のレベル



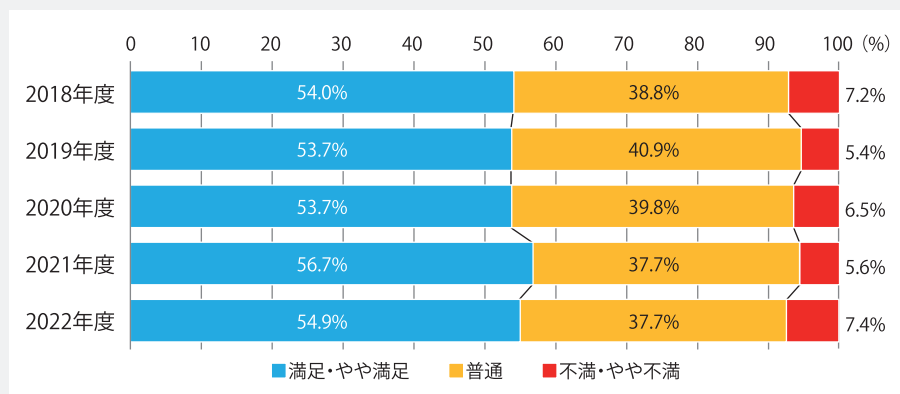


「お客様満足度向上アンケート」実施状況

	実施時期	配布数	有効回答数	有効回答率	総合満足度(5点満点での平均点)		
					消毒	定期点検	リピート意向
2018年度	2019年1月	5,373名	1,223名	22.8%	3.83	3.71	4.28
2019年度	2020年1月	5,484名	1,224名	22.3%	3.84	3.71	4.25
2020年度	2021年1月	5,608名	911名	16.2%	3.88	3.72	4.29
2021年度	2022年1月	6,055名	956名	15.8%	3.91	3.78	4.31
2022年度	2023年1月	5,850名	730名	12.5%	3.91	3.71	4.26

これまでのアンケート結果の分析により、「定期点検の満足度」が、「リピート意向」および「推奨意向」との相関関係が高いと結論づけ、定期点検の満足度を向上させる施策を実施しています。

定期点検(総合)満足度の推移



これまでで最も高かった2021年度を下回ったものの、半数以上のお客様から「満足」「やや満足」の評価を頂いています。

定期点検関連の満足度平均点(5点満点)の推移

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
総合	3.71	3.71	3.72	3.78	3.71
案内ハガキ	3.48	3.51	3.52	3.55	3.53
アポイント	3.52	3.54	3.59	3.59	3.59
訪問時マナー	3.97	4.00	4.04	4.04	3.99
点検内容	3.92	3.91	3.96	3.98	3.93
点検結果報告	3.96	3.92	3.97	4.05	3.96

アンケートの結果分析により、「点検内容」と「点検結果報告」が、定期点検の総合満足度との相関関係が高いという結果が出ており、注力項目としています。

サニックスに対するご意見(自由記述) 2022年度アンケート回答より

分類	ご意見(一部抜粋)
お誉め	<ul style="list-style-type: none"> <li>今まで頼んだ所より、説明も安全性もバツグンでした。友だちにも、すでにすすめました。来て下さった方も一所懸命で、とても嬉しかったです。貸家が数軒ありますので、これからもよろしくお願いします。</li> <li>再発した時も、すぐに来て下さり、しっかりと処置して頂きました。どのような状態のかも写真で説明して下さい、安心しました。5年間の保証があるというのが大変有難いです。</li> </ul>
ご提案 ご要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>顔写真入りの名刺は良いと思いました。私も現役時代に名刺は頂いたり、渡したりしましたが、顔と名前が一致するのは写真入りが一番だとつくづく思った次第です。ただ、年月が経つと容姿も変わりますので5年スパンで写真を入れ替えるなどメンテナンスも必要かと思えます。</li> <li>長期契約者に対し割引お願い致します。担当の方がとても良い方なので、ずっと担当して頂きたい。</li> </ul>
お叱り	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工前と後との違い等をもっと説明して頂けたらと思う。</li> <li>いつもばらばらの月に定期点検に来るので来る月を決めて欲しい。</li> </ul>

# 社会貢献活動



## スポーツ・文化国際交流振興を通じた青少年の健全育成

サニックスグループは、国際的なスポーツ大会や文化イベントを実施し、ユース世代選手の育成・国際交流の場を提供しています。その舞台は、当社創業者が私費（株式公開時に得た創業者利益）を投じてつくった、総合スポーツ・文化施設「グローバルアリーナ」（福岡県宗像市）。

スポーツ大会では、選手同士が競技以外でも、生活をともにしながらコミュニケーションを図り、お互いの文化への理解を深めます。日本選手の礼儀正しさに感銘を受けた海外選手が、あいさつやお辞儀、整列などの行動を真似するようになったり、ウェルカムパーティーで、あるチームが「We are the world」を合唱すれば、次々と他のチームの選手が加わり大合唱になったり。これらも、いまや毎年の光景となっています。

ユース世代のスポーツイベント歴代参加者数  
(ラグビー・サッカー・ハンドボール・新体操・柔道)

**43**カ国・地域から約**52,300**人

(2023年3月末現在)

上記大会は、2015年10月以降、スポーツ・フォー・トゥモロー※の認定事業として実施。7年間の活動で、当会員団体で最多の認定事業を実施したことが評価され、「スポーツ庁長官感謝状」を授与されました(2022年1月)。



◀室伏スポーツ庁長官(当時)より、オンラインで感謝状授与。(2022年1月26日)

※スポーツ・フォー・トゥモロー(SFT)日本の官民連携によるスポーツを通じた国際貢献事業。

### グローバルアリーナ ブルガリアフェスティバル

2001年から、毎年開催※ ※2001年は12月、以後9月。

【主催：(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



#### ■趣旨

ブルガリアの文化を紹介するとともに、日本とブルガリア双方向の異文化・国際交流を図る。来日するカザンラック民族舞踊団は、グローバルアリーナでのイベントの他、各地の小中学校や福祉施設も訪問。

### サニックス ワールドラグビーユース交流大会

2000年から、毎年4月下旬～5月上旬に開催。

女子(7人制)は2013年から。 ※2022年度は国内大会。

【主催：(公財)日本ラグビーフットボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



#### ■歴代参加国・地域

オーストラリア、カナダ、台湾、イングランド、フィジー、フランス、アイルランド、イタリア、韓国、ニュージーランド、ロシア、サモア、スコットランド、南アフリカ、トンガ、ウルグアイ、ウェールズ、日本

(2022年までの累計参加者：13,456人)

### サニックス杯 国際ユースサッカー大会

2003年から、毎年3月下旬に開催

【主催：(一社)九州サッカー協会、(一財)サニックススポーツ振興財団】



#### ■歴代参加国・地域

オーストラリア、ブルガリア、中国、台湾、イングランド、フランス、インド、イタリア、韓国、マレーシア、オランダ、ニュージーランド、ロシア、タイ、アメリカ、ウズベキスタン、ベトナム、日本

(2023年までの累計参加者：8,000人)

2014年より、「サニックス杯高校女子サッカー大会」(国内大会)を同時期に開催(同累計参加者：1,802人)。なお、2022年度は、参加対象を拡大し、大会名を変更。

### サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

2008年から、毎年10月下旬に開催 ※2022年度は国内大会。

【主催：九州ハンドボール協会、(一財)サニックススポーツ振興財団】



#### ■歴代参加国・地域

カナダ、台湾、フランス、ドイツ、香港、韓国、オランダ、タイ、日本

(2022年までの累計参加者：3,770人)

女子大会は2013年より開催。

### サニックスCUP 国際新体操団体選手権大会

2003年から、毎年11月下旬に開催※ ※2012年度までは国内大会。

2022年度は国内大会。 【主催：(一財)サニックススポーツ振興財団、(株)グローバルアリーナ】



#### ■歴代参加国・地域

オーストラリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、中国、台湾、カザフスタン、韓国、リトアニア、マレーシア、ロシア、タイ、日本

(2022年までの累計参加者：11,641人)

2017年より、対象の年齢層を上げた「サニックスOpen新体操チーム選手権」を1月に、国内男子による「SANIXCUP男子新体操競演会」を2月に開催。(2023年までの累計参加者：サニックスOpen677人、SANIXCUP男子488人)

### サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会

2003年から、毎年12月に開催 ※2022年度は国内大会。

【主催：九州柔道協会、(一財)サニックススポーツ振興財団他】



#### ■歴代参加国・地域

オーストラリア、ベスラン、ブルガリア、チェチェン共和国、中国、台湾、ドイツ、香港、イスラエル、韓国、ラトヴィア、モンゴル、オランダ、パレスチナ、ルーマニア、ロシア、シンガポール、スロベニア、南アフリカ、スリランカ、アラブ首長国連邦、アメリカ、日本

(2022年までの累計参加者：12,510人)

★マークの写真は©MasafumiONO



## グローバルアリーナブルガリアフェスティバル

2001年夏、ブルガリアを訪れた故宗政伸一（サニックス創業者=前社長）は、同国の文化や人間性に感銘を受け、以後毎年、日本で「ブルガリアフェスティバル」を開催してきました。

当フェスティバル等を通じて、日本とブルガリアの活発な文化的交流を図ってきたことから、宗政伸一は、2007年10月8日、在福岡ブルガリア共和国名誉領事に任命されました。宗政伸一の逝去に伴い、宗政寛（サニックス現社長）が2019年1月16日、在福岡ブルガリア共和国名誉領事の命を受け、現在に至ります。

※新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止の観点から、2020年度は実施見送り、2021年度および2022年度は、ブルガリアからの来日なして、規模を縮小して実施。



2019年3月、ブルガリア共和国ザハリエヴァ副首相兼外務大臣（当時）より、在福岡ブルガリア共和国名誉領事任命証を授与。

### 第19回（2019年9月）グローバルアリーナブルガリアフェスティバルより

#### ■カザンラック民族舞踊団によるイベント／国際交流

##### ワールドフェスティバル



世界の屋台料理やダンス・音楽に触れるワールドフェスティバル。ブルガリア・カザンラック市から、カザンラック民族舞踊団が来日し、リズムカルな音楽と軽快なダンスで、盛り上げます。※カザンラック民族舞踊団・・・1947年創立の同国で最も長い伝統を誇る青少年舞踊団。

##### 公演



グローバルアリーナの所在する宗像市（福岡県）の施設での公演。なお、宗像市は、当フェスティバルをきっかけに、カザンラック市とパートナーシップ協定を締結しています。

##### 学校訪問



毎年、小中学校等を訪問し、子供たちと触れ合っています。この年は、福岡県、佐賀県下の学校へ。また、宗像市老人ホームでの敬老会にも出演しました。

#### ■市民参加イベント



料理教室や園芸教室等、ブルガリアの文化に触れる機会も多々設けています。写真は、民族衣装の舞踊団ダンサーをモデルに、市民のみなさんが筆を走らせる写真会。

#### ■宿泊交流



地元の青少年が、グローバルアリーナでブルガリアにホームステイしたような体験ができる機会を設けています。



ブルガリア・カザンラック市のバラの女王も、毎年来日。



## サニックスワールドラグビーユース交流大会

2000年から実施している、歴史ある大会です。いまや、当大会に出場した選手が、国内外トップレベルのリーグで活躍する姿も見られるようになってきました。世界中の高校生が、競技以外の生活においてもコミュニケーションを図り、互いの文化や習慣を学び、理解を深めるのも特徴の大会です。

2022年度には、国内大会ながら3年ぶりに開催が叶い(有観客)、全試合の映像のライブ配信も行いました。

**2019年度大会より** ※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、2020年度・2021年度は、実施見送り、2022年度は、国内大会。



通常の試合に加えて、「より多くの選手に世界大会の経験を」と、出場機会の少ない選手を選抜した混成チーム同士のエキシビションマッチを行ったり、世界中から集まる指導者の交流を図ったりと、趣向を凝らした大会です。

### 参加者談

- ◆どのチームもレベルが高かった。そんなチームと試合ができて良かったし、素晴らしい体験になりました。(男子海外チームキャプテン)
- ◆海外チームとの試合で一番感じたことは、体の大きさです。国内では、なかなか経験できない相手で、良い経験ができました。(男子国内チームキャプテン)
- ◆海外チームと試合をし、いい加減な緩いタックルでは体格差があるので通用しないと感じました。(女子国内チームキャプテン)
- ◆エキシビションゲームは、見ていても興奮しました。チームメイトがいろいろな国の選手と一緒にプレーしているのを観戦できて、素晴らしい経験でした。(男子海外チームキャプテン)
- ◆海外の選手が、開会式前にとっても明るくあいさつして来てくれて、一緒に遊んだりして、仲を深めることができました。(女子国内チームキャプテン)
- ◆試合以外でも、他国の選手と交流する機会がたくさんありました。例えば、夜はフロントや休憩スペースに集まり親交を深めました。ユニフォームの交換もできて本当に楽しかったです。(男子海外チームキャプテン)



ウェルカムパーティーでのひとコマ。自然発生的に、「We are the world」の大合唱。



グラウンド外での交流も、貴重な体験に。



ラグビーの振興・発展の貢献に対し、(公財)日本ラグビーフットボール協会より2019年度普及功労賞を受賞。(写真右は、同協会森重隆会長(当時))



## サニックス杯 国際ユースサッカー大会／サニックス杯U17女子サッカー大会

※サニックス杯高校女子サッカー大会より名称変更。

2022年度(2023年3月)は、男子は4年ぶりの国際大会として、海外より初出場のインドをはじめ、韓国、マレーシアの3チーム、国内より全国の強豪13チームが集結。女子(国内大会)は、本大会より高校大会という枠を超え、クラブチームまで参加対象を拡大。それぞれ、熱戦を繰り広げました。

なお、一人でも多くの方に大会をお楽しみいただきたく、全試合、ライブ配信を行いました。

2019年(2018年度)大会より ※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、2019年度は実施見送り、2020年度・2021年度は、国内大会。



### 参加者談

◆2回目の参加でしたが、運営は時間通り行われ、試合に集中することができました。宿泊と競技が同じ施設内にあることのメリットは大きく、選手の健康管理も十分に行うことができました。  
(海外チームコーチ)

## サニックスカップ U-17国際ハンドボール交流大会

ユース世代のハンドボールの普及と発展、競技力の向上、国際文化交流の場を提供し、グローバルな視野を持つ青少年の育成を目指して開催している大会です。従来、国際大会として実施している大会ですが、2022年度は前年度に続き、国内大会として開催しました(有観客)。今年で男子大会は14回目、女子大会は9回目を迎え、全国より男子8チーム、女子4チームの強豪が、熱のこもった戦いを展開しました。

2019年度大会より ※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、2020年度は実施見送り、2021年度・2022年度は、国内大会。



### 参加者談

◆大会はレベルが高く、運営もよく、選手は試合に集中することができました。グローバルアリーナは、競技にも宿泊にも快適な場所であり、スタッフのホスピタリティも素晴らしいものでした。また、参加したいと思います。(海外チームヘッドコーチ)

★マークの写真は©MasafumiONO



## サニックスCUP 国際新体操団体選手権

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、2020年度は実施見送り、2021年度・2022年度は、国内大会。

ジュニア・チャイルド層の新体操の普及を図るとともに、日頃の練習の成果を発表する場として、また、参加選手が技術と表現力を学び合い、国際交流を図ることを目的として開催しています。

2022年度は、日本全国から計119チームが参加しました。前年に続き、海外チームの来日は叶いませんでしたが、シニア競技においては、オーストラリアと台湾の2チームが、事前に収録した演技映像で審査を受ける方式で参加しました。



### 参加者談

◆若い選手にとって海外の地で大会に参加することは、技術を学び向上させるのにとっても大事なことです。サニックスカップでは生活もともにするので、文化も学び合うことができました。

(オーストラリアチームコーチ)

## サニックスOpen新体操チーム選手権

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、2020年度は実施見送り、2021年度は、国内大会。

ジュニア世代を対象とする「サニックスCUP国際新体操団体選手権」(上記)を発展させたシニア(中学2年生以上)を対象とする大会です。

2022年度は、3年ぶりに国際大会として開催。海外6チーム、国内22チーム、ならびに福岡・ブルガリアの混合1チームの計29チームの選手が、華麗な演技で競い合いました。



### 参加者談

◆素晴らしい環境で、試合ができて、子どもたちの刺激になりました。来年はもっとレベルアップして試合に参加したいです。(韓国チームコーチ)

## SANIX CUP男子新体操競演会

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、2020年度・2021年度は実施見送り。

幼稚園児から高校3年生までを対象とし、2022年度は、女子選手も加えた「ミック部門」を新設。国内7団体・78名の選手が、技を競いました。



### 参加者談

◆男子新体操は大会自体が少ないので、このような素晴らしい環境で多くの選手が参加する大会を行っていただき感謝しています。(参加チームコーチ)

## サニックス旗 福岡国際中学生柔道大会

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、2020年度は実施見送り、2021年度・2022年度は、国内大会。

中学生柔道の普及・発展ならびに競技力の向上を目指すとともに、国際大会で活躍できる競技者および、次世代を担う青少年の健全な育成を図り、国際社会で貢献できる人材を育てることを目的とした大会です。男子大会としてスタートし、10回目大会から女子大会も併せて実施。本大会の経験者から、オリンピックや世界選手権の金メダリストも誕生しています。

2022年度は、前年に続き、国内大会として開催。日本全国から男子58チーム、女子42チームが出場しました。



### 参加者談

◆800名を越える選手が参加する大会が当たり前のように行われる環境にいらることができて、素晴らしいと感じました。ぜひ今後も続けてほしいし、参加したいと思います。

(モンゴルチームコーチ)



## 教育参画

サニックスグループでは、従業員の質が、お客様に提供する仕事の質に直結するという考えから、創業当初から、教育に注力してきました(46ページ参照)。長きにわたる従業員教育等で得た、育成に関する知見およびノウハウを、また社内の人的資源を社外にも提供しています。

### ラグビーを通じたスポーツ・健康指導～小学校では教育課程として授業に定着～



体育の授業でタグラグビー指導



体育の授業でタグラグビー指導



サニックスラグビーアカデミー(ラグビー塾)



サニックスラグビーアカデミー(ラグビー塾)

2022年5月、ラグビー部「宗像サニックスブルース」を活動休止としましたが、2022年9月に「サニックスラグビーアカデミー」を開講しました。28年間の経験、人材や施設を活用し、ラグビーを通じた地域貢献を継続していきます。

(一財)サニックススポーツ振興財団(1997年財団法人として設立)とともに実施してきた、小学校の体育の授業におけるタグラグビー指導、幼稚園・保育園児へのラグビー訪問教室などを継続する\*とともに、小・中学生を対象とするラグビー塾をスタート。子どもたちを全力でサポートします。

\*2020年度以降は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、規模縮小。

#### 小学校(授業)でのタグラグビー指導

15校、1,015人(2021年度)  
15校、976人(2022年度)

#### 幼稚園・保育園ラグビー訪問教室

4園、176人(2021年度)  
8園、180人(2022年度)

#### サニックスラグビーアカデミー

4クラス、57人(2022年9月末)  
4クラス、67人(2023年3月末)

### 「サニックスラグビーアカデミー」の諸活動

#### 小・中学生ラグビー塾



※この塾のことも「サニックスラグビーアカデミー」と呼んでいます。

「ラグビーをもっとプレーしたい」小中学生をサポート。小学5・6年生クラス、中学生クラスをそれぞれ週2回(平日夜)開講しています。(2023年3月現在/2023年4月より週3回に拡大)

#### 行政との協働活動



「ラグビータウンむなかた」をうたう、福岡県宗像市と協働で、「小学生ガールズラグビースクール」を開講(小学3～6年生女子を対象)。ラグビーの楽しさを伝えています。

#### 大人のにわかラグビー教室



2022年2月より、大人対象のラグビー教室「大人のにわかラグビー教室」を、開催しました(月1回×全7回)。毎回、20～60代の男女、約30名に、楽しくご参加いただきました。

### 教育現場への社内人材派遣など

#### ▶ 福岡県教員採用試験・面接委員派遣

「子どもが憧れる人間的魅力、子どもに対する広く深い愛情、教師としての強い使命感」を有する教師の輩出を目的に導入されている、福岡県教員採用試験の「外部面接試験委員」として、当社人事部員を派遣。幅広い視野を取り入れたい自治体と、自社で培ったノウハウを社外で活用し、地域社会に貢献したいという当社の考えが一致したものです。



ジョブレンズ撮影風景

#### ▶ 小・中学校キャリア教育への講師派遣・教材制作

学校教育において、将来子どもたちが、社会的・職業的に自立し、自分らしく生きていくための力を育む「キャリア教育」が推進されています。

当社においては、「夢授業」(福岡キャリア教育研究会)への講師派遣(2023年2月、福岡市立当仁中学校)、小中学生向けキャリア教育用Web教材「ジョブレンズ」((一社)ジョブレンズ実行委員会)の制作(2023年3月)などにより、キャリア教育を支援しています。

# サステナビリティデータ

## 環境 Environment



### ■事業を通じた環境貢献

		単位	2020年度	2021年度	2022年度
廃プラスチック処理量		(千t)	266	282	273
廃棄資源を利用した発電量 <sup>*1)</sup>		(GWh)	247	291	242
ソーラーパネル	設置件数	(件)	1,590	1,531	952
	設置容量	(MW)	59	36	31
受託廃液の浄化処理量		(千t)	96	102	100

\*1) 当社プラスチックリサイクル工場にて中間処理を行ったプラスチックを原料とした発電量を記載しています。

### ■事業における環境負荷

		単位	2020年度	2021年度	2022年度
エネルギー使用量 <sup>*2)</sup>		(千GJ)	356	377	334
温室効果ガス排出量	Scope1 <sup>*3)</sup>	(t・CO <sub>2</sub> )	9,545	10,933	9,623
	Scope2 <sup>*4)</sup>	(t・CO <sub>2</sub> )	15,250	14,309	11,610
水使用量 <sup>*5)</sup>		(千t)	323	295	277

\*2) サニックスグループにおいて、温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度報告対象の拠点における報告数値を記載しています。

\*3) 温対法算定報告公表制度におけるCO<sub>2</sub>排出量に加え、社有車使用におけるCO<sub>2</sub>排出量より算出しています。

\*4) 電気事業者別排出係数を用いて算出した電力由来の調整後のCO<sub>2</sub>排出量を表記しています。

\*5) 水使用量の大半は、廃液処理工場・苫小牧発電所の工業用水量です。

## 社会 Social



### ■雇用・従業員(サニックス単体)

		単位	2020年度	2021年度	2022年度	
雇用・人員	従業員数	合計	(人)	1,844	1,869	1,868
		男性/女性	(人)	1,555/289	1,559/310	1,556/312
	入社数	合計	(人)	273	226	253
		新卒/中途	(人)	57/216	43/183	97/156
	障がい者雇用	人数/比率	(人/%)	32/2.4	31/2.3	31/2.4
	外国籍従業員 <sup>*6)</sup>	人数	(人)	30	24	11
	定年退職者の再雇用 <sup>*7)</sup>	人数	(人)	124	132	144
	平均年齢	(歳)	43.6	42.9	43.9	
平均勤続年数	(年)	9.2	9.9	10.1		
労働・休暇	平均総実労働時間		(時間/人)	2,366	2,345	2,283
	平均有給休暇取得日数		(日/人)	11.7	9.7	12.4
			(%)	63.4	56.9	68.6
	育児休業取得者数	合計	(人)	17	15	25
		男性/女性	(人)	3/14	2/13	6/19
介護休業取得者数		(人)	1	1	3	
労働安全衛生	T R I R(総災害度数率) <sup>*8)</sup>			1.63	1.25	1.97
	L T I R(休業災害度数率) <sup>*9)</sup>			1.25	0.56	1.17
	災害死者数		(人)	0	0	0
人財開発	年間研修参加人数(延べ) <sup>*10)</sup>		(人)	523	442	595

\*6) 3月末時点で外国籍を保有する者を指します。

\*7) 3月末時点の累計を記載しています。

\*8) 20万延べ労働時間あたりの不休災害を含めた総労働災害の発生頻度。

\*9) 20万延べ労働時間あたりの休業災害の発生頻度。

\*10) 研修とは、当社人財開発部が主催する、自己研鑽を含む社員研修および、事業部門別研修を指します。



社会 Social



■地域・社会貢献活動

			2020年度	2021年度	2022年度
出前授業の実施状況	人財開発部	(訪問件数)	2	1	0
		(対象人数)	26	190	0
	ラグビー部等*11)	(訪問件数)	20	27	23
		(対象人数)	1,107	1,501	1,156
サニックスラグビーアカデミー*12)		(開催数)	—	—	55
		(受講者数)	—	—	67
ブルガリアフェスティバルの実施状況		(来場者数)	—*13)	3,720*13)	2,426*13)
サニックスプレゼンツイベントの実施状況		(参加チーム数)	20*13)	217*13)	317*13)
		(参加人数)	500*13)	1,888*13)	2,830*13)
サニックスワールドラグビーユース交流大会		(参加チーム数)	—*13)	—*13)	20*13)
		(参加人数)	—*13)	—*13)	456*13)
サニックス杯国際ユースサッカー大会 サニックス杯高校女子サッカー大会*14)		(参加チーム数)	20*13)	24*13)	28
		(参加人数)	500*13)	582*13)	700
サニックスカップU-17国際ハンドボール交流大会		(参加チーム数)	—*13)	12*13)	12*13)
		(参加人数)	—*13)	185*13)	185*13)
サニックスCUP国際新体操団体選手権		(参加チーム数)	—*13)	122*13)	121*13)
		(参加人数)	—*13)	740*13)	790*13)
サニックス旗福岡国際中学生柔道大会		(参加チーム数)	—*13)	56*13)	100*13)
		(参加人数)	—*13)	309*13)	501*13)
SANIX CUP男子新体操競演会		(参加チーム数)	—*13)	—*13)	7
		(参加人数)	—*13)	—*13)	78
サニックスOpen新体操チーム選手権		(参加チーム数)	—*13)	3*13)	29
		(参加人数)	—*13)	72*13)	120

\*11) 保育園・幼稚園・小学校でのタグラグビー授業、地域住民へのラグビー体験・健康教室も含めています。

\*12) 2022年9月に開講した、小学生から中学生を対象とするラグビー塾です。

\*13) 2020年3月～2022年12月は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止の観点から、実施見送りや規模縮小(国内大会としての実施など)の対応を取っています。

\*14) 2022年度より、参加対象をクラブチームまで拡大し、大会名称を「サニックス杯U17女子サッカー大会」に変更しています。



ガバナンス Governance

			2020年度	2021年度	2022年度
取締役の人数	社内	(人)	11	11	10
	社外	(人)	5	5	5
	総計	(人)	16	16	15
社外取締役比率		(%)	31.3	31.3	33.3
取締役任期		(年)	1	1	1
取締役会	開催回数	(回)	14	16	16
監査等委員会	開催回数	(回)	8	13	14
コンプライアンス委員会	開催回数	(回)	0	0	0
	委員数	(人)	15	15	15
内部統制委員会	開催回数	(回)	8	11	10
	委員数	(人)	14	14	13

# マネジメント体制

## 取締役



代表取締役社長  
むねまさ ひろし

宗政 寛 (1975年7月17日生)

2003年1月 当社入社  
2007年6月 取締役役員室付特命担当  
2013年6月 取締役副社長執行役員  
2017年1月 代表取締役社長、現任  
2017年1月 (株)バイオ代表取締役社長、現任  
2017年2月 (一助)サニックススポーツ振興財団  
代表理事、現任  
2017年9月 宗政酒造(株)代表取締役会長、現任  
2020年4月 (株)サニックスエナジー代表取締役  
会長、現任  
2020年7月 (株)SEウイングズ代表取締役会長、現任  
2022年6月 (公財)金子財団理事、現任



取締役 副社長執行役員  
いなだ たけし

稲田 剛士 (1979年3月4日生)

1998年8月 当社入社  
2009年4月 HS事業本部関西地区本部部長  
2013年6月 常務執行役員HS事業本部関西地区  
本部部長  
2014年4月 常務執行役員西日本SE事業本部関西  
地区本部部長兼HS事業本部関西地区  
本部部長  
2016年12月 常務執行役員東日本SE事業本部副部長  
2017年4月 常務執行役員SE・HS・ES事業統括本部  
部長  
2017年6月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業  
統括本部部長  
2023年6月 取締役副社長執行役員SE・HS・ES事  
業統括本部部長、現任



取締役 常務執行役員  
ますだ みちまさ

増田 道正 (1977年8月16日生)

2001年4月 当社入社  
2010年7月 経理部長  
2012年6月 取締役経理部長  
2015年6月 取締役常務執行役員経理部長兼  
IT推進担当  
2018年8月 (株)サニックス太陽光でんき代表取締  
役社長、現任  
2019年11月 取締役常務執行役員管理本部副部長  
長兼エネルギー事業本部エネルギー  
事業開発部長  
2022年6月 取締役常務執行役員コーポレート本  
部部長兼管理本部部長、現任



取締役 常務執行役員  
かねこ けんじ

金子 賢治 (1951年10月2日生)

1970年4月 (株)西日本相互銀行(現(株)西日本シテイ  
銀行)入行  
2008年6月 当社常務取締役事業戦略担当  
2008年10月 常務取締役事業戦略担当兼環境資源  
開発事業本部長  
2010年6月 常務取締役HS事業本部特別販売部  
(現法人営業部)部長  
2017年4月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業  
統括本部副部長兼特別販売部(現  
法人営業部)部長、現任



取締役 常務執行役員  
たばた かずゆき

田畑 和幸 (1973年4月5日生)

2000年11月 当社入社  
2015年10月 西日本SE事業本部四国地区本部部長  
兼HS事業本部四国地区本部部長  
2016年1月 HS事業本部営業推進部長  
2016年5月 常務執行役員HS事業本部長  
2017年6月 取締役常務執行役員HS事業本部長  
2022年6月 取締役常務執行役員SE・HS・ES事業  
統括本部副部長兼SE事業本部長兼  
HS事業本部長、現任



取締役 常務執行役員  
たけい ひでき

武井 秀樹 (1970年7月21日生)

1999年8月 当社入社  
2009年12月 環境資源開発事業本部管理部長  
2016年4月 執行役員環境資源開発事業本部長兼  
管理部長  
2016年6月 常務執行役員環境資源開発事業本部長  
2017年10月 取締役常務執行役員環境資源開発事  
業本部長  
2022年4月 取締役常務執行役員環境資源開発事  
業本部長兼資源リサイクル事業部長、  
現任



取締役 執行役員  
いのうえ もとけい

井之上 基 (1967年1月1日生)

1989年4月 (株)西日本銀行(現(株)西日本シテイ銀行)  
入行  
2020年4月 同行西新町支店長兼福岡西ブロック長  
2022年4月 当社入社、本社付部長  
2022年6月 取締役執行役員SE・HS・ES事業統括  
本部法人営業部営業推進部長、現任

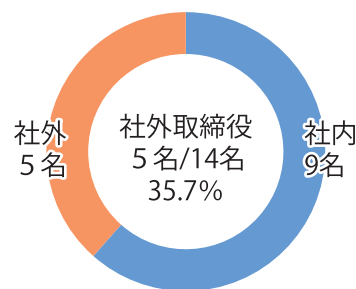


取締役  
たかぎ てつお

高木 哲夫 (1950年7月15日生)

1974年4月 (株)大林組入社  
1979年9月 (株)高木工務店入社、同社取締役  
2003年8月 (株)ジョー・コーポレーション高木入社、  
同社取締役  
2006年7月 当社入社、HS事業本部顧問  
2012年1月 (株)サニックスエンジニアリング転籍、  
同社取締役  
2017年11月 当社転籍、技術部顧問  
2020年6月 取締役建設業務担当、現任

### 取締役会の構成





2023年6月29日現在

取締役(監査等委員)



取締役(監査等委員)

いのうえ こうぞう

井上 公三 (1956年4月23日生)

1979年4月 (株)三和銀行(現(株)三菱UFJ銀行) 入行  
 1991年10月 当社へ業務出向  
 1993年4月 当社経営企画部上場推進室長  
 1995年8月 当社入社、経営企画部経営企画室長  
 1999年6月 取締役  
 2000年4月 常務取締役経営企画部長  
 2004年6月 常務取締役管理本部長兼経営企画部長  
 2018年8月 取締役常務執行役員企画本部長兼管理本部長兼経営企画部長  
 2023年6月 取締役(常勤監査等委員)、現任



社外取締役(監査等委員)

こんどう いさむ

近藤 勇 (1955年7月7日生)

1980年5月 ナスステンレス(株)(現ナスラック(株)) 入社  
 1986年3月 宗政酒造(株)入社  
 1999年3月 宗政酒造(株)代表取締役専務  
 1999年7月 (株)グローバルアリーナ代表取締役社長、現任  
 2010年8月 宗政酒造(株)監査役、現任  
 2014年6月 当社社外取締役  
 2019年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任



社外取締役(監査等委員)

かねこ なおき

金子 直幹 (1967年5月8日生)

2001年6月 (株)トヨタレンタリース福岡代表取締役社長、現任  
 2005年5月 福岡昭和タクシー(株)代表取締役社長、現任  
 2006年6月 福岡トヨタ自動車(株)代表取締役社長、現任  
 2009年9月 (株)SEEDホールディングス代表取締役社長、現任  
 2010年2月 昭和グループマーケティング(株)代表取締役社長、現任  
 2010年5月 トヨタL&F福岡(株)代表取締役社長、現任  
 2010年6月 九州朝日放送(株)社外取締役、現任  
 2013年6月 トヨタカローラ福岡(株)代表取締役会長、現任  
 2014年6月 昭和自動車(株)代表取締役会長、現任  
 2015年6月 当社社外取締役  
 2019年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任  
 2019年10月 福岡トヨペット(株)代表取締役会長、現任  
 2020年4月 トヨタモビリティサービス福岡(株)代表取締役会長、現任  
 2022年2月 (一社)日本自動車販売協会連合会会長、現任



社外取締役(監査等委員)

くぼた やすふみ

久保田 康史 (1946年2月5日生)

1968年4月 最高裁判所司法研修所入所  
 1970年3月 最高裁判所司法研修所修了  
 1970年4月 弁護士登録(東京弁護士会入会) 明舟法律事務所入所  
 1980年4月 霞ヶ関総合法律事務所設立  
 同事務所パートナー弁護士、現任  
 2013年3月 ロイヤルホールディングス(株)監査役  
 2016年3月 ロイヤルホールディングス(株)社外取締役(監査等委員)  
 2016年6月 当社社外取締役  
 2019年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任



社外取締役(監査等委員)

やすい げんいちろう

安井 玄一郎 (1941年8月17日生)

1967年7月 山田商事(株)(現リックス(株)) 入社  
 1975年1月 同社取締役経理部長  
 1976年3月 同社代表取締役社長  
 1997年6月 当社社外監査役  
 2000年6月 リックス(株)代表取締役会長  
 2004年8月 同社取締役会長  
 2008年6月 同社取締役相談役  
 2012年6月 同社顧問  
 2019年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任



社外取締役(監査等委員)

ばば さだひと

馬場 貞仁 (1954年4月3日生)

1978年4月 トヨタ自動車工業(株)(現トヨタ自動車(株)) 入社  
 1992年2月 トヨタ自動車九州(株)転籍  
 1998年1月 同社生産管理部生産企画室長  
 2001年4月 同社生産管理部長  
 2003年4月 同社経営管理部長  
 2003年6月 同社取締役  
 2007年6月 同社常務取締役  
 2011年6月 同社専務取締役  
 2014年6月 同社代表取締役副社長  
 2021年1月 同社エグゼクティブアドバイザー  
 2021年6月 リックス(株)社外取締役(監査等委員)、現任  
 2021年6月 当社社外取締役(監査等委員)、現任

# コーポレートガバナンス

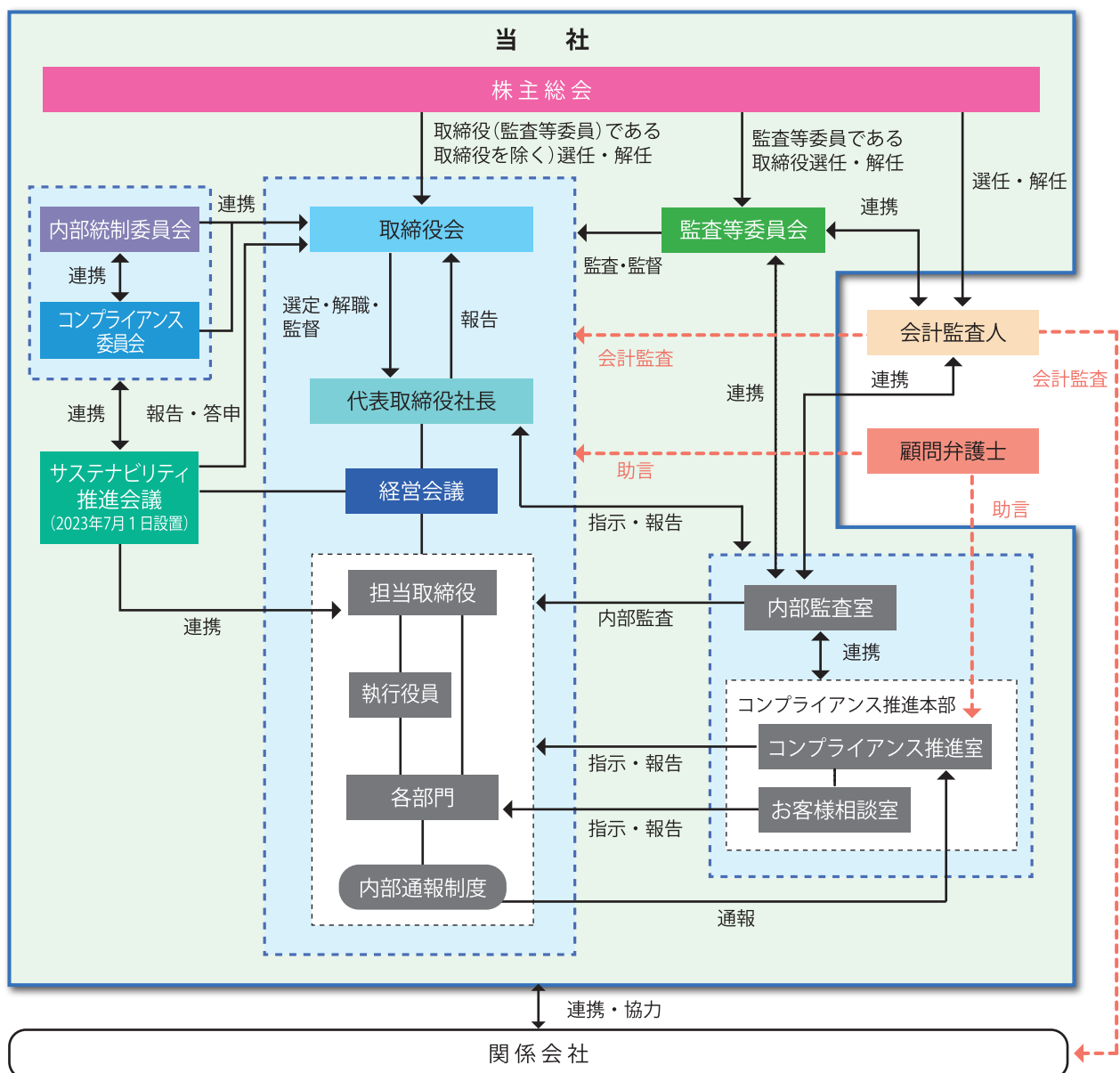
サニックスグループでは、コーポレートガバナンスは、企業倫理に基づく社会的責任をもった経営のあり方を問われている重大な問題であるという認識のもと、企業価値の最大化、ならびに株主重視の経営を行うべく、意思決定の効率化、経営の監督機能、経営の公正性および透明性、コンプライアンス遵守などが十分機能する体制の構築を図るとともに、長期的な視点に基づいたコーポレートガバナンス体制を構築します。

## ■経営の健全性と意思決定の効率化を図るコーポレートガバナンス体制

サニックスグループは、さらなる企業価値向上に資するとの判断により、監査等委員会設置会社の形態を採用しています。構成員の過半数を社外取締役とする監査等委員会を設置し、監査等委員である取締役役に、取締役会における議決権を付与することで、取締役会の監督機能を高め、コーポレートガバナンスの一層の強化と経営の公正性、および透明性の高度化を図ります。また、取締役会が業務執行の決定を、広く取締役に委任できるようにすることで、業務執行と監督を分離し、意思決定の効率化を図ります。

### ■コーポレートガバナンス模式図（2023年7月1日現在）

2023年6月29日開催の取締役会の決議により、2023年7月1日付で「サステナビリティ推進会議」を設置しました。「サステナビリティ推進会議」設置後の当社の企業統治の体制は以下のとおりです。





## ■取締役会の役割

サニックスグループの持続的な成長および中長期的な企業価値の向上に資するため、適法かつ迅速に重要事項（経営計画や経営戦略）に対する適切な意思決定を行うとともに、監査等委員会と協働して取締役（監査等委員であるものを除く）および執行役員の職務執行を監督する。

## ■監査等委員会の役割

取締役の職務執行の監査・監督、会計監査人の選任・解任および不再任に関する議案の内容の決定ならびに監査報酬に係る権限の行使など、その他法令および監査等委員会規程により定められた事項を実施する。

## ■内部統制委員会

- ・内部統制の整備・運用を推進するとともに、有効性の評価結果の取りまとめを行う。
- ・サニックスグループの事業を取り巻く内外のリスク要因を見直し、取締役会に報告する。
- ・適正な財務報告を実現するため、監査等委員会と緊密に連携し、適時適切に意見交換を行い、内部統制の実効性を高める。
- ・委員長は取締役社長とし、各事業部門の本部長、管理本部長、総務部長、法務部長、経理部長他が委員として構成される。経営企画部内に事務局を置き、運営にあたる。

## ■監査体制（三様監査）

監査等委員は、経営会議等重要な会議に出席することで収集した各種情報を監査等委員会で共有することにより、取締役の職務遂行を監査・監督することとしています。また、会計監査人と緊密な意見交換を行い、内部監査および内部統制関連部署とは、そのレポートラインに監査等委員会を加えることにより連携を密にし、適時適切な監査・監督を実施します。

内部監査については、各部門および各事業所における業務に関して監査を行う組織として社長直轄の「内部監査室」を設置し、会社が定める規定などの遵守状況や業務全般に関して妥当性、有効性、適法性について監査し、取締役社長及び監査等委員会に報告するとともに、随時関係部門に勧告、是正指導等を実施します。

## ■社外取締役の活動状況並びに出席状況（2022年度）

	出席状況		主な活動状況（期待される役割に関して行った職務の概要）
	上段：取締役会	下段：監査等委員会	
近藤 勇	15/16	93.8%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に関する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な立場から、経営に対する監査機能を果たしている。
	13/14	92.9%	
金子 直幹	14/16	87.5%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に関する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な立場から、経営に対する監査機能を果たしている。
	10/14	71.4%	
久保田 康史	15/16	93.8%	法律専門家としての経験と見識の基づき、特に経営全般・ガバナンス強化のための有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な立場から、経営に対する監査機能を果たしている。
	13/14	92.9%	
安井 玄一郎	15/16	93.8%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に関する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な立場から、経営に対する監査機能を果たしている。
	13/14	92.9%	
馬場 貞仁	16/16	100.0%	会社の代表取締役としての経営経験などから、中長期的視点に基づく経営に関する有益な助言ならびに、取締役会の機能および議論のあり方について有益な助言を行い、業務執行を行う経営陣から独立した客観的な立場から、経営に対する監査機能を果たしている。
	14/14	100.0%	

※社外取締役就任後の開催数。

## ■コンプライアンス委員会

業務運営の適正化を目的として、代表取締役社長を委員長、コンプライアンス推進本部長を副委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置しています（詳細は次ページ参照）。

# コンプライアンス・リスク管理

サニックスグループは、サステナブルな社会の実現に寄与する事業活動を行っている立場から、コンプライアンスを健全な企業経営の根幹と位置づけています。組織全体にコンプライアンスの意識を浸透させるため、新入社員研修カリキュラムにコンプライアンスに関する講義を含むほか、各事業部門の事業内容に関連する法令よりも厳しい基準となる「自主行動基準」を定め、その遵守に努めています。

## ■コンプライアンス遵守体制

### ■コンプライアンス委員会

サニックスグループでは業務運営の適正化を目的として、代表取締役社長を委員長、コンプライアンス推進本部長を副委員長、各事業部門主管部長およびその他選任委員を構成メンバーとする「コンプライアンス委員会」を設置しています。

2006年度以降、77回開催しています(2023年3月末時点)。また、当該委員会は必要に応じて取締役会や内部統制委員会と連携を図っています。

### コンプライアンス委員会構成メンバー (2023年3月末現在)

委員長：代表取締役社長

副委員長：コンプライアンス推進本部長

委員：S E・H S・E S事業統括本部長、P V E事業統括本部長、コーポレート本部長、S E事業本部長、H S事業本部長、E S事業本部長、環境資源開発事業本部長、専任委員

## ■情報セキュリティ

### 個人情報保護

サニックスグループは、創業以来、多数の個人のお客様とお取引引きささせていただきます。そのため、当社グループは個人情報を適切に管理することを社会的責務と考え、「情報セキュリティ方針」とは別に「個人情報保護方針」を定め、役員・従業員および関係者に周知徹底を図り、個人情報の保護に努めています。

### 個人情報管理体制

個人情報については、当社グループが行う事業の範囲内で収集目的を明確に定め、その目的達成に必要な限度において適法かつ公正な手段によって行うものとし、管理する個人情報は、会社において処理されるすべての個人情報を対象としています。また、個人情報の管理体制として、個人情報保護方針の実施および運用に関する責任と権限をもつ個人情報保護統括管理者を設置し、その指揮のもとに、各事業本部に個人情報取扱管理者、各事業所に個人情報保護取扱責任者を配置することで、網羅的に管理を行っています。また、公平かつ客観的な立場にあり、監査の実施及び報告を行う権限をもつ監査責任者による定期的な監査の実施により、運用上のリスク評価、運用状況の監督をしています。

### 情報セキュリティに関する従業員教育

情報セキュリティ、ならびに個人情報の取り扱いについては全ての従業員に対する継続的な教育の実施が必要不可欠であると考え、サニックスグループでは入社時の研修・教育ならびに入社後も定期的にeラーニングを活用した教育を実施しています。また、情報セキュリティの重要性および必要性に関する確認テスト結果と、社内システムへのアクセス権限付与を連動させるなどの取り組みを通じ、教育内容の定着に努めています。

また、重要度の増す情報セキュリティ対策について、対象別・目的別に適切な教育プログラムを用意し、情報セキュリティ教育を実施します。



### 情報セキュリティ対策として、メール訓練

ウイルスメール(標的型攻撃メール)に対する意識の現状を把握し、一人一人の意識・対応力を高めていくことを目的として、全従業員を対象に、定期的なメール訓練を実施しています。

#### 〈メール訓練概要〉

予告なしで、攻撃メールに似せたテストメール(URL記載)を送信し、その後の各自の行動(URLのクリックなど)を確認する。

後日、結果を公開するとともに、注意が必要な事項についての啓蒙・教育を実施する。



## ■ 通報制度

### ■ 内部通報制度

不法行為などの早期発見と是正を図り、コンプライアンス経営の強化に資することを目的として、内部通報制度を設けています。この制度は、サニックスグループ従業員に限らず、従業員の家族や建設業に係る協力会社など、幅広く利用することができます。2022年度は、国内外グループ全体で7件の通報を受け付け、すべて然るべき手順で、解決を図っています。なお、財務諸表に影響を与えるような内容はありせん。



建設業関係協力会社専用ページ(WE B)にも、相談窓口を設置しています。

## ■ 営業活動におけるコンプライアンスの具体的な取り組み

### ■ 自主行動基準

法令遵守はもとより、コンプライアンスに準拠した質の高いサービスの提供を目的として、事業部門ごとに、各事業内容に即した「自主行動基準」を策定し、各事業部門内で共有しています。なお、関連法令の改正などの社会情勢の変化に応じ当該自主行動基準を適宜改定しています。

### ■ コンプライアンス推進協議会



BtoCの事業を行う部門については、毎月営業店舗単位でコンプライアンス推進協議会を開催しています。営業活動に密接に関わる特定商取引に関する法律(特定商取引法)に留まらず、自主行動基準やお客様満足度向上などをテーマに全職種で意見を出し合いコンプライアンス意識の向上や定着を図っています。



ご家庭向けサービスにおける取り組みについて、自主行動基準の一部を、ホームページに掲載。

### ■ 訪問販売員教育



▲訪問販売員教育指導者資格証

訪問販売を行うH S事業部門では、全事業所の所長および全営業・顧客管理職について、公益社団法人日本訪問販売協会の定める「JD SA認定教育登録」を推進しています(2023年3月末現在、238名が取得)。また、当登録制度の充実強化策として設けられている「訪問販売員教育指導者」を、社内に22名配置し(2023年3月末現在)、登録制度に係る教育の徹底および、教育レベルの維持を図っています。

#### 〈JD SA認定教育登録とは〉

販売員に対する教育を行い、その資質の向上を図ることを目的とする制度。公益社団法人日本訪問販売協会が定めた教育カリキュラムを履修し、試験に合格した販売員を登録するとともに、「JD SA認定教育登録証」が交付される。

### JD SA認定教育登録 当社教育カリキュラム

教育項目	カリキュラム	受講形態	備考	
専門	会社の歴史・役割 (70分) 一般建築物 (140分)	一定期間に、各自、社内 のeラーニングにて、全カリ キュラムを受講した後、 テストを受け合格する。	テキストは当社で作成 し、公益社団法人日本訪 問販売協会の審査を受け たものを使用。	
	シロアリ (70分×2) 基礎補修 (70分)			
	換気関連 (70分×2) 遮熱・断熱 (70分)			
標準	訪問販売員の心得/遵守すべき 法規制/関連確報の要点	特定商取引法・割賦販売法等 (360分)	当社にて集合研修。	

## ■サプライヤー（持続性のあるバリューチェーンの構築）

### ■ 安定的な調達に向けて

サニックスグループでは、サプライヤーにおける災害発生時や事故発生時、需給逼迫時などにおける調達リスクを軽減し、安定した調達を継続するために、国や地域のもつ固有のリスクや特徴などを加味した上で、

- ①品目ごとに設定した安全在庫数量の管理
- ②マルチサプライヤー化の推進
- ③代替品の検討
- ④物流ルートの把握

などを実施しています。

## ■BCP（事業継続計画）

サニックスグループでは、地震、風水害等の自然災害、火災などの緊急事態に遭遇した場合において、従業員とその家族の安全を確保しながら事業資産の被害を最小限に留めつつ、事業の継続あるいは早期復旧を図ることにより、お客様、お取引先様などからの信頼の維持、および会社の存続を図り、ひいては社会経済の発展に資することを目的に、事業継続計画を定めています。

### 〈サニックスグループの災害時における基本方針〉

- (1) 従業員とその家族の生命・安全の確保を最優先とする。
- (2) 事業へのダメージを極小化し速やかに業務の早期復旧を図る。
- (3) 顧客との信頼関係を第一とする行動をとる。
- (4) サニックスグループとして求められる社会的責務を遂行する。

定期的に各種取り組みを実施し、従業員の防災意識の向上を図るとともに、緊急事態への備えを強化しています。

### 〈取り組み例〉

- ・従業員に対する安否確認アプリの使用訓練
- ・災害時備蓄品の棚卸し
- ・各事業所の避難場所や緊急連絡先、避難経路の確認、更新
- ・従業員に対する防災に関する意識調査

## ■製品等重大事故への対処

サニックスがお客様※に販売・提供した、製品（他メーカー製造のものを含む）や施工サービス等が原因で、重大な事故が発生した場合の対応について、「製品等重大事故対処規程」を定めています。

※消費生活用製品安全法で定められている一般消費者。

### 〈製品等重大事故対処 基本方針〉

- (1) 当社は、製品等重大事故において「お客様第一」を行動の基本方針とし、誠意ある対応に努める。
- (2) 製品等重大事故の原因が他者にある場合、事実を適正に扱い、当該他者の事故隠し、虚偽化もしくはそれにつながるような不正行為には加担・協力をしない。
- (3) お客様や第三者の人身に損害がなくとも「今後発生するかもしれない」というリスク認識の下で行動する。

防災週間の取り組みの一つとして、安否確認アプリを使って、防災テストを実施しました（2022年8月30日～9月5日）。  
回答率は8割強、正答率（全5問平均）は約6割でした。

### 〈回答率〉

